

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の地域における評判は近年の努力が実を結び改善されつつあるが、決して風評が改善された訳ではない。地域や保護者から信頼を勝ち得るにはさらなる学校改善が必要である。退学者や懲戒処分者が以前に比べて大幅に改善されたものの、まだまだ減らす必要がある。退学者及び懲戒処分者のさらなる減少に取り組み、地域に貢献する学校となり、保護者や地域から信頼されると同時に生徒自身が本校を母校としてプライドを持てる学校となることをめざす。

さらに、本校に入学した生徒の全員が学業に部活動に学校行事にがんばって卒業する学校、生徒それぞれが自己実現を果たし希望の進路に向かって歩めるような学校をめざす。そのために、今後は学力向上にしっかりと取り組む。個に応じた教育に転換するとともに、一層きめ細かな指導を行い、基礎学力を確実に身につける教育を実施し、卒業時には生徒全員が自己実現できる夢と希望に溢れる学校になることをめざす。

1. 生徒の笑顔が溢れる学校
2. 保護者や地域から信頼され地域に貢献し愛される学校
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校

2 中期的目標

(1) 入学した生徒が全員がんばって卒業できる学校にする。
 ○(2) から (6) の目標によって、「魅力ある学校づくり」「面倒見のよい学校づくり」を推進し、「入学した生徒が全員がんばって卒業できる学校にする」ための方策とする。
 ○教育相談システムを充実させ、生徒の状況を把握し、よりよい方向へ導くような取り組みを充実させる。精神的な病気等については外部機関との連携を行う。
 ○学校生活支援チームを充実させ、退学防止へ全校一丸となるように取り組む。

(2) 確かな学力の定着へ向けた取り組みを推進する。
 平成23年度入学生から教育課程を大幅に変更し専門コースを導入した。いずれも2年生になってから選択させるため、1年生ではガイダンスを充実させ、1年の秋に自己の適性や進路を決められるように指導する。
 2年次及び3年次の専門コースの各科目、教養コースの各科目の教材開発を継続して行う。
 ○「分かる授業」の推進
 1年生、2年生で実施している国語、数学、英語での習熟度別授業については、学習の到達目標を見直すと共に、さらなる効果的かつ有効的な授業展開の工夫改善に取り組む。
 ○専門コースの充実
 「環境科学コース」・・・理科系に興味のある生徒を集め、その能力を高める。ホテルの人工飼育、農業体験等との関連付けにより、自然環境を守る意識をもつ人材を育成する。
 「国際文化コース」・・・4年制大学への進学希望者に対して大学で学ぶ意欲を引き出すと共に大学へ入学後、授業について行ける学力を身につけさせる。日本の伝統や文化についても学び誇りを持つ人材を育成する。
 ○学校設定のコースの授業の充実
 義務教育段階の数学(算数を含む)、理科等の学び直しを行い、社会に出て困らないための基礎学力を徹底して定着させる取り組みを行う。
 ○漢字力、英語力の開発及び定着
 漢字力の定着
 1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。
 英語力の定着
 2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全員4級以上の修得を目指す。全国標準の力と自信をつけさせる。

(3) 部活動の活性化
 ○部活動による指導により、生徒の社会性・自主性を涵養する。
 ○部活動加入率をあげることにより、学校に対する帰属意識を醸成する。50%をめざす。

(4) 生徒が個々に抱えている進路目標を達成すべくキャリア教育の充実に取り組む。卒業時には進路未決定者を0にする。
 ○入学時からキャリア教育に取り組み、夢と希望を語らせるとともにしっかり目標を立てさせる。
 ○就職希望者は100%の合格をめざし、徹底した学力をつけさせる。
 ○大学進学も十分可能であることを1年生から自覚させ自身を持たせるとともに目標に向かって学習する意欲を引き出す。
 ○「総合的な学習の時間」を活用し「志学」を3年間で35時間を設定し、3年間を見通したカリキュラムを設定する。
 ○キャリア教育に対する3年間を見据えた指導計画を策定する。
 ○グアムとの国際交流を推進し定着させ、生徒のグローバルな視点を持たせる。

(5) 環境教育の推進及び地域貢献をおこない、地域にはなくてはならない学校となる。
 ○ホテルの人工飼育や農業体験などにより地域やとの交流を推進し、関係諸機関と連携し、環境を守る人材を育成すると共に地域の環境保全の核となる。
 ○ハートピア泉北(老人介護施設)や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進し地域に根を張ると共に、生徒のコミュニケーション能力や自尊感情を養う。

(6) ICTの活用
 ○平成24年度末に全ホームルームクラスに導入した電子黒板を活用する授業を積極的に応援し、分かる授業の取り組みを推進する。
 ○教材を共通のコンテンツとして電子データで作成し、同一の教科で同一レベルの教科指導が行えるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>①よく当てはまる②やや当てはまる③あまりあてはまらない④まったく当てはまらないの内、①+②の合計%を平成23年度、24年、25年度順に示す。</p> <p>問1 学校へ行くのが楽しい。 生徒：23年度64%→24年度68%→25年度70% 子どもは楽しく学校へ行っている 保護者：80%→84%→80% 生徒は学校へ行くのが楽しそうだ 教員：83%→72%→76%</p>	<p>◎第1回学校協議会(平成25年5月13日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板は見やすく解りやすいので、全クラスで活用してほしい。 ・書画カメラも全クラス導入されているので、書画カメラから使い慣れていけばよいのでは。 ・英検や漢検を受けさせることは、自己実現のためにも活用してほしい。 ・過去にも個別指導で生徒の長所を伸ばし、近大や関大に合格させた

<p>問2 授業はわかりやすく工夫されていると思う。生徒：25年度65% 子どもは授業がわかりやすいと言っている。 保護者：53%→49%→70% ※評価の基準は不明であるが、平成25年度全クラスに電子黒板を導入していることが影響しているのではないかと推察する。</p> <p>問3 進路や興味・関心に応じた選択科目やコースが設置されている。 生徒：50%→60%→72% 保護者：51%→60%→76% 教員：41%→64%→69% 平成24年度から実現したコース設置の意義が実感されている。</p> <p>問4 将来の針路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある。生徒：60%→61%→69% 教員：79%→95%→90% 将来の進路や職業などについて子どもに適切な指導を行っている。 保護者：61%→70%→81%</p> <p>問5 先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる。 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。 生徒：34%→50%→64% 保護者：63%→62%→82% 教員：25年度より調査 90%</p> <p>問6 悩みや相談に応じてくれる先生がいる。 子どものことについて気軽に先生に相談できる。 生徒：40%→46%→65% 保護者：59%→60%→74% ※より一層のカウンセリングマインドを磨きたい。教員研修の成果があがっているように思える。</p> <p>問7 体育大会や文化祭は楽しい。 子どもは体育大会や文化祭を楽しんでいる。 学校行事は生徒にとって魅力的なものとなっている。 生徒：74%→78%→81% 保護者：80%→79%→84% 教員：86%→94%→92% ※より充実させていきたい。</p> <p>問8 クラブ活動や生徒会活動は、同じような状況の他校と比べて盛んだ。教員：48%→39%→41% ※この状況に課題がある。</p> <p>問9 国際交流（グアムの学校との交流）や環境教育（清掃活動やホテルの人工飼育）などが盛んである。 生徒：43%→67%→77% 保護者：73%→77%→90% 国際交流（グアムの学校との交流）や環境教育（清掃活動やホテルの人工飼育）を推進しているは良いことだ。 教員：59%→58%→46% ※グアム修学旅行とホテルの人工飼育について生徒や保護者には、本校の特色として浸透してきている。一方教員は、評価を下げている生徒や保護者の意識との乖離が見られる。</p> <p>問10 先生は子どものことについて保護者への連絡や相談をしっかりと行っている。 保護者：57%→69%→80%</p> <p>問11 学校は、保護者の願いによくこたえており、対応が良い。 保護者：54%→65%→82%</p> <p>問12 子どもを福泉高校に入学させて良かった。 保護者：74%→77%→91% ここに示した質問以外にも、本年度は、生徒、保護者の結果については、ほとんどすべての質問において前年度より肯定的評価が増える結果となった。この事は、「ほめて育てる」という姿勢が、評価されたのではないかと考える。 より親切で丁寧な生徒指導の実践やカウンセリングマインドのスキルについて評価も含め浸透してきている。 コース制については、生徒、保護者、教員とも理解を深めている。、グアムへの修学旅行を含む国際交流、ホテルの人工飼育については、生徒、保護者は、評価しているが、教員の評価は下がっている。準備の苦労があると思うが、生徒のために教員にはがんばってもらいたい。 究極の評価である、子どもを福泉高校に入学させて良かったという保護者の満足度が増していることは有難いことであり、学校力の向上に一層邁進して行きたい。</p>	<p>実績がある。目標を達成することで、生徒にも教員にも達成感があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方がチームワークを持って、様々な問題の解決に向け取り組んでいくことが大切。 教案を共同開発し、それを先生方が共有するなどして、負担軽減をいろいろ考え、余力を他の指導に活用するなどしていただきたい。 <p>◎第2回学校協議会（平成25年10月8日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動が活発になると学校が活性化されるので、ぜひ加入率40%を目指してほしい。 福泉高校は、退学者や留年生の減少といった成果を上げている中で、校長先生の考え方や目ざしていることを、教員がどの程度認識しているかが課題となるでしょう。 今までの考え方を変えなければ校長先生の意図していることに繋がらないと思うので、ぜひ目標を達成のためがんばってください。 生徒一人一人の長所を見つけてほめることは大変なことと思うが、「ほめて育てる」方針を推進してください。 生徒は教員の反応を見ている。適切に「ほめる」「しかる」を使い分け規律のある授業をお願いする。 生徒の指導には莫大なエネルギーを使う。そのために教員は、自分の個性を生かした指導法を確立すると共に、チームワークが大切である。また場合によっては人間として真剣に生徒と向き合うことも必要である。 <p>◎第3回学校協議会（平成26年1月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部から提出された資料に福祉関係に進んだ生徒数が載っているが、高齢化が益々進むので需要は高い。生徒達が福祉や保育に関心を持っていただくことは喜ばしいことです。 資格を取って自分の進路を切り開いていくことは良いことです。 「いじめ対応」で生徒と教員とでは意識の差が見られるが、「学校にいじめはない」という対応がいじめを助長させている。常にいじめは起きるという認識が学校には必要と考える。 スクールソーシャルワーカー（SSW）を活用することで、生徒だけでなく保護者の福祉面まで対応できるのはとても良いことです。 学力向上には「何回も読む・書く」など反復練習が必要と考えます。 小さい頃からの学習習慣が大切です。そのためには学校だけでなく家庭の協力が不可欠です。 子供のスマホにかける時間は膨大で、学習にかける時間はほとんどないのが現状です。学校での情報教育と学習の反復練習が大切と思う。 反復練習の根幹は「わかる授業」と思う。 学校はトイレと生徒の登下校を見れば解る。福泉高校は先生方の取り組みにより成果が上がり、落ち着いた雰囲気がある。数字にこだわらず、生徒が生き生きとした学校づくりを目指してください。 仕事量の増大や多岐にわたる生徒指導で大変だと思いますが、生徒の適性を伸ばす指導をお願いします。 (全学年募集クラス+1 ホームルームという)多クラス展開は、教員の熱意を感じます。 「生徒にとってためになっているか」を判断材料に取り組んできました。今後の一層の飛躍を願っています。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 卒業できる学校 全員ががんばって	1. 学業にがんばらせる 2. 留年生、退学者及び懲戒処分者の減少	1. 目標をもたせ、規範意識を涵養し、努力して進級・卒業させる。 ・「魅力ある学校づくり」「面倒見の良い学校づくり」の推進のため(2)～(6)の中期目標達成の為、親切的な指導体制の確立を一進する。 ・努力して進級・卒業するための学習の習慣・規範意識を身につけさせる。 2. 生徒理解・生徒支援の一層の推進 ・教育相談の活性化及び充実 ・生徒理解を推進しきめ細かな指導を一層充実させる。 ・家庭訪問の充実 ・規範意識の涵養	1. 学校教育自己診断による学校に対する満足度に対する指標を平成24年度より向上させる。 2. 退学者・留年生・懲戒処分者を前年度比20%減とする。	1. 保護者の満足度(入学させてよかった)は、平成23・24・25年度とそれぞれ74%・77%・91%と向上している。生徒の満足度(学校へ行くのが楽しい)も、64%・68%・70%と向上している。(◎) 2. 懲戒処分者は、20%減となっている。(○) 退学者・留年生は、8%減にとどまっている。(×)
(2) ICTの活用 確かな学力の定着及び	1. わかる授業の一層の推進 2. 計算力の向上 3. 漢字力・英語力の向上	1. 全ホームルームクラスに導入した電子黒板を活用した授業改善をおこなう。 2. モジュール授業を実施し、計算力を中心とする生徒の基礎学力を養成するとともに、授業における集中力を涵養する。 3. 漢字力、英語力を養成するために、1年全員に漢字検定、国際文化コースに英語検定を受検させるとともに、4級合格率増加のための方策をとる。	1. 電子黒板を活用した研究授業を10回以上行い解りやすい授業の開発につとめる。 2. モジュール授業を1つの学年以上で年間を通じて定着させる 3. 1年で漢字検定4級合格率が60%以上をめざす。 国際文化コースにおける英語検定4級合格60%以上をめざす。	1. 電子黒板活用の研究授業を10回行い、活用率が2割程度となっている。(○) 2. モジュール授業については、授業中の自主導入とし、来年度全学年募集クラス+1クラスのホームルーム展開を優先した。全クラス少人数展開に教育資源を集中するほうが、モジュール授業の早朝導入より効果は高いと判断した。(◎) 3. 今年も1月末に漢字検定、英語検定を実施した。漢字検定4級の合格率は24%にとどまっている。(×)英語検定は国際文化コースのみならず2年生全員実施した。国際文化コースの4級合格率44%にとどまっている。(×) なお、3年生で英検2級合格者が出たことは昨年度よりの取り組みの成果と考えている。(◎)
(3) 部活動の活性化	1. 部活動の加入率をあげる 2. 特色ある部活動の支援	1. 現在30%未満の加入率を40%とする。 2. 熱意のある指導者のいる部活動を支援する。	1. 加入率の増加。 2. 部活の大会等での活躍。	1. 平成24年度30.0%から平成25年度31.4%と微増。1年に限れば、27%から36.5%に増加(△) 2. 走り高跳びにおいて近畿大会2位の成績を上げた。バドミントン、ダンス部なども賞状を獲得(○)
(4) 進路指導の充実	1. 大学進学希望者に対する指導の充実 2. 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」を活用し就職率の向上 3. キャリア教育プログラムの開発	1. 大学との連携を継続するとともに新規連携校を模索する。 H24年度の取り組みを継続し、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・太成学院・大学近畿大学等との連携を継続するとともに強化する。 ・保護者に対して奨学金や国の教育ローンの説明会を1学期に実施し、大学進学への資金計画をサポートする。・H24年度からスタートする2つの専門コース及び教科「教養」の3年時に学習する教材と学習プログラムを開発する。 2. 「職業適性診断テスト」及び「キャリアカウンセラー」「外部講師」を活用して生徒自身のモチベーションを高め、進路に対する意識を高める。 3. 学年ごとばらばらであった進路指導体制を改め、3年間を見通したキャリア教育プログラムを開発する。	1. H24年度の大学進学者数30名以上を定着させる 2. H25年度の年度末時点の就職率が95%以上になることをめざす。(3年後には100%) 就職試験1次合格者を60%以上にする。(3年後には80%) 3. 進路指導部主導によるキャリア教育プログラムの完成	1. 平成25年度は、大学進学者数25名であった。但、桃山学院大学進学者8名となり、例年の4倍となった。(△) 2. 就職試験1次合格率60.3%であった。3月末現在の就職率95.3%である。(○) 3. 9月より職員会議準備でない運営委員会を開催するようにしたので、スムーズに課題解決ができるようになり、キャリア教育プログラムも完成した。(○)
(5) 環境教育の推進及び地域貢献	1. 中庭の美化 2. ホタルの人工飼育継続及び発展 3. 近隣施設や地域との交流の推進	1. 2年計画で宿根草や多年生の球根を多く植え花園を造り環境教育の一助とすると共に豊かな環境を創設し情操の安定化を図る 2. H21年度から開始したホタルの人工飼育を改良し幼虫の生存率を上げる。 ・地元と連携した取り組みに発展させるため「ホタル保存会」(仮称)を設立し、地元の力を活用した事業に発展させ今後の継続性を高める取り組みを行う。 ・H24年度からスタートする「環境科学コース」を視野に入れた学習プログラムの開発を継続して行う。 3. ハートピア泉北(老人介護施設)や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進する。 ・農業実習を通じての地域との交流を推進する。	1. 花園の創設。 玄関周りの整備状況。 中庭の整備状況。 2. H26年の6月には100匹以上の成虫を乱舞させる。 ・地元の保護団体との連携を推進する。 3. 地域、生徒と近隣施設との交流を10回以上おこなう。	1. なごみを与える環境になった。クリスマスのイルミネーション、ひな人形の玄関ホール設置などなごみの環境ができた。(◎) 2. 6月の観賞会には、100匹程度の乱舞があり、600名の参加があった。生徒によるホタル保存会(ボランティア部)の立ち上げを行った。また、保護団体の支援による水路整備も行われた。(◎) 3. 目標以外にも鳳商店街との交流等、活発におこなわれた。(○)